

Tokyo Video Festival for the people

東京ビデオフェスティバル

2014年
1月18日(土)
10:30~17:30
日本工学院専門学校
3号館
10Fホール

2014

REPORT

作品が語る人生
伝わる熱い想い
広がるビデオ＆
コミュニケーション



【審査委員・コメンテーター】 (敬称略/五十音順)

【ゲスト審査委員】



大林宣彦
映画作家



小林太三
ビデオ作家
成安造形大学客員教授



佐藤博昭
ビデオ作家
日本工学院専門学校講師



高畑 勲
アニメーション映画監督



村田正一郎
映画評論家

【主催】 NPO法人「市民がつくるTVF」

〒143-0015 東京都大田区大森西2-16-2 ころば大森2F <http://tvf2010.org/> TEL:03-6404-6613 FAX:03-6404-6614 email:info@tvf2010.org

【後援】
大田区・大田区教育委員会・(公財)大田区文化振興協会・(公財)大田区産業振興協会・(一社)大田観光協会

【特別協賛】
日本工学院専門学校

【協力】
テレビ愛媛ビデオリポータークラブ・星の降る里声別映画園学校・NPO法人湘南市民メディアネットワーク・サイバーリンク社

【協力】
㈱ 玄光社・ビデオサロン・㈱ 伸樹社・ビデオジャーナル・伊東多賀子さま

TVFならではの真摯な姿勢。作品を通じた対話に熱い視線が。

T o k y o V i d e o F e s t i v a l f o r t h e p e o p l e

東京ビデオフェスティバル2014

開催!

国内外から応募作品172本が寄せられた「東京ビデオフェスティバル2014」は、2014年1月18日(土)、日本工学院専門学校ホール(東京・蒲田)にて開催されました。海外(タイ)から、全国各地から、入賞者のみなさんをはじめとした約200名のビデオファンが来場され、会場は熱気に包まれました。

【 受付 】



温かくお迎えする……おもてなしの対応

【 入賞作品上映会 】



契会挨拶する
NPO小林はくどう代表理事

大スクリーンに映し出された迫力ある映像

後援5団体を代表して挨拶する
大田区産業振興協会野田隆徳理事長

【 トークフォーラム&公開審査会 】



グランプリ(ビデオ大賞)選出で真剣な討議を繰り広げる審査委員のみなさん



ラクチャイさん
(タイ)

池田 穂さん

川瀬佐和子さん

堀切さとみさん

馬場美紀さん

三浦 沙さん

米山 肇さん

白月由貴子さん

松田治三さん



大林 直 氏



小林はくどう 氏



佐藤博昭 氏



高橋 勲 氏



村山 一郎 氏



司会の下村健一 氏

活発に行われた入賞者のみなさんとの対話

表彰式

佳作



優秀作品賞



サポーター賞



筑紫哲也賞



ビデオ大賞



功労賞



入賞者、審査委員、関係者が対拍した恒例の記念撮影

東京ビデオフェスティバル2014 入賞30作品

世界にひとつしかない
それぞれの作品。
作者の「想い」が観る人の
心を動かす。



ビデオ大賞

東京ビデオフェスティバル2014を象徴する「ビデオ大賞」作品は、優秀10作品から審査委員会が選出したもっとも優れた作品に贈られます。



筑紫哲也賞

日本を代表するジャーナリストとして高く評価された故・筑紫哲也氏のご遺族のご厚意により贈られる特別賞です。入賞30作品の中から選出されます。



サポーター賞

市民がつくるTVFのホームページで配信上映される入賞30作品の中から、TVFサポーターの投票により選出される特別賞です。

[優秀作品賞10作品]

私の頭の中

池田 稔
68歳
栃木県
15分15秒



関心を持つイメージを同列に提示するアートインスタレーションだ。一見バラバラだが、言葉で表示された「原発、汚染」がハブとなって構成されている。原発の不安が解消されるのはいつだろうか。将来、幼い子どもに影響は？ 原発は安全か？ 地球の万物はリンクしている故の原発に対する怖さを警告している。

きっと世界は素晴らしい

ビデオ大賞

川端佐和子
県立芸術総合高校
17歳
埼玉県
15分03秒



女子高生は直感で一人の男子高生生の言動が気になる。彼には充実感がないのだろうか。放課後、屋上でうつぶふんを晒すかのように絶叫を始める。彼女も気持ちで駆け上がり絶叫を始め、二人に安堵感が漂う。特にとらわれないドキュメンタリーのような自然体の演出とクローズアップが新鮮。

廃校になった高校で
～双葉町との出会い～

堀切とらみ
47歳
埼玉県
19分55秒



福島第一原発事故で警戒区域にある双葉町の避難民1400人が埼玉県の廃校になった高校に集団移転した。作者は町民と親しくなり、次第に彼らの本音をカメラに収録し始める。町民たちは自分たちで何ができるかを考え模索する。空虚な避難所での生きがいや自らの人生まで見つめる姿を追い続ける。

ネジとねこ

馬場美紀
35歳
東京都
9分25秒



線画タッチのメルヘンなアニメーション。工場でネジを作り続けている職人のネコが主人公で、不可思議なカプカプ文学を連想させる。華やかなテレビの芸能人を見て、自分を悔みに思うようになり、落ち込み、引きこもってしまう。しかし、嵐で壊れた時計塔を直し、1本のネジに込めたものづくりへの思いを再確認する。

祖母

三浦 紗
25歳
東京都
20分00秒



平凡な家庭でも孫から見ると家族の歴史は謎だ。仙台の88歳の祖母は認知症が進んでいて、記憶が定かでない。祖母といつも一緒にいる人形の「めぐみちゃん」。1世紀前に米国に移住した親戚が50年前に贈ってくれたらしい。作者は理り主を探しにシアトルへ向かい、初めて大勢の親戚たちと対面する。

Qd-project

米山 肇 +
ARTLIVERS
グループ
神奈川県
11分13秒



相模原市での全国高等学校弓道選手権大会でのプロジェクトマッピングをもとに構成している。弓道は美しいと認識したのが東北災害との対決構図。競技を超えた現代の武道を感じた。地元紹介ということで「小惑星探査機はやぶさ」と「弓道」を重ねているのも興味深い。映像ショーイングの広がりを感じる。

終章の祈り

～あなたに愛を遺して～

白井山由子
65歳
神奈川県
9分53秒



終末医療病院に勤める看護婦が患者家族の許可を得てカメラを指す。死期が迫っている患者も揺られることで少し元気をとり戻すようだ。認知症を患う高齢女性。彼女の楽しみは見舞いに来る娘夫婦とのふれあいだ。娘はプロのカンツォーネ歌手で、その歌声にうっとり。時には衝撃の告白もある。家族の記憶資産だ。

Dear Flying SHISA

塚原真梨佳
21歳
東京都
19分40秒



退校した父にカメラを向けながら、「父親が自衛官だったことが凄かった。」と語り出す娘。国よりも家族の方を大事にしてほしかった。「ビデオがクッションになって親子の本音が語られていく。急患空輸の任務に就いていた父もしっかりと「気持ちのキャッチボール」を送す。自衛隊家族の心の動きが興味深い。

広島原爆の惨禍
～ひとつの証言映像～

サポーター賞

松田治三
76歳
広島県
18分50秒



瀬戸内海に浮かぶ広島島は自然豊かなが、1971年土木作業中に617体の遺体が見つかった。広島原爆での被災者を疑わしき処理するために埋められたものだ。発掘の様様を8ミリフィルムで収めたのがビデオ仲間の中野健雄氏。作者はこの映像を足掛かりに、証言をもとに当時を解明する。映像記憶遺産としても貴重。

2 Brothers

Worrawut
Lakchai
タイ
9分10秒



タイの教育的メッセージドラマ。些細なことで幼い兄弟に喧嘩は絶えない。父親はいり加減諦めると叱るが、相変わらずだ。野外での弁当でも片方が勝手に食べてしまう。父が考えたサッカーボールでも同じだ。怒った父はボールを2つに切ってしまふ。上手く遊べない兄弟は協力して2つを結んで一つのボールにしてみるが、

東京ビデオフェスティバル2014には、海外を含めた172作品が寄せられました。その中から選りすぐられた入賞30作品は、それぞれが市民目線で表現された素敵な作品が揃いました。世界でひとつしかないオンリーワンの傑作ばかりです。



佳作20作品

長妻工場裏側

長妻 洋
75歳
茨城県
8分00秒



若いころから修理屋をやっていたと語り語る家族史。作業場を近代設備にし、一人前になった整備士の長男にパトタッチした心境を語る。頑固とはいかない。事務所で寝起きすることが多くなった長男の生活にカメラは心配だ。長男の仕掛けたブログを使ったPRで最近では売上アップが図れたという。家族の空気感がいい。

神楽が街にやってきた!

石川 晴
59歳
栃木県
20分00秒



定例の一人の木工が仕上げた移動式神楽舞台が完成した。その発起人はプロデューサー木村亮子さん。ロシアでの早稲穂神楽に感動してわが町でも演じてもらい、目を覚ましにしたいという思いからだった。彼女の発案に賛同する人々の協力で「復興支援と神楽」が実現する。伝統芸能に対する若い熱量が魅力。

たなぼた

青柳 完治
82歳
群馬県
2分00秒



紀実和実のドラマ。熟年夫婦による熟演が可愛い。此日の新聞は重く、夫はポストから道心通中にキックリ返ってしまい病院で安静となる。妻の連絡で取次店が取りにやってきた。本社から賞金30万円出たという。妻は内職で大半を自分の財布に入れてしまう。賢くに特上種菓を注文して入ります。

ランチボックス

加藤 秀樹
53歳
埼玉県
19分30秒



原発の町が推している復興を基にしたドラマだ。電力会社に反対しようにも復興済住民になるしかない地域社会で、青年は下請け企業で働き、原発再稼働に巻き込まれる。会社は演歌歌手を置いて住民に新たな価値を打ち出す。彼の楽しみは津波で亡くなった母親の弁当。今は自分で作っている。

あそぶ

浮田 彰織
高立
習志野高等学校
18歳
埼玉県
9分51秒



絵を描くことを遊びにした習志野高校生の創作。丹になり、くじ引きで賞を決め、お互いの似顔絵を描き合う。おしゃべりが楽しそう。この絵を使って教室や屋上、体育館、校庭でダンスを始め、時には撮影しているビデオカメラ女子も参加してパフォーマンスが盛り上げられる。アルバムビデオの傑作。

雨乞いの祈り

～御新用乞行事～

住田 晴
70歳
埼玉県
9分54秒



目黒川が枯れと豊から各地で雨乞いが行われてきた。鶴ヶ島市御新用乞行事の記録。「雷神」は竹と変わりなどで作り、長さ36m、重さ3吨になる。これを300人の男性が担ぎ、約2kmの行程を繰り返す。カメラは雨乞いを支える男性に2年越しで密着。ご利用か、翌日は晴天になった。

有朋自遠方来

～友あり道方より来～

福田 文孝
78歳
千葉県
9分30秒



映像合成技術を使用した平成の一人旅芝居である。高柳晋がコミカルにまとめた。男は散歩しているとき亡くなったはずの友人に再会する。友人は異国の国からやってきた。賢けは温泉入浴中に亡くなり、地獄で罰金のお金を持っていたが温泉で、運池から地球を眺めていたも落ちてしまったという。

30秒のセカイ

film_puzzle
グループ
東京都
3分41秒



30秒で完結する最短編で笑える4日構成のドラマ。1話は「小説」。推理小説が大好きな几帳面な男性の夏休みのひと時の癒やかなる準備。その積み上げたものが一瞬に...。2話は「今日も料理」。人気番組の視聴率が低迷。プロデューサーから賞金の発表が。まあ、どうする。料理の先生などなど。

ノネコの引っ越し作戦

～海を越えて命を守る～

岡田 紗由香
中央大学
凡才科科一ゼミ
20歳
東京都
10分05秒



世界自然遺産の小笠原。珍しい生物が豊富ですが、生物の一部が絶滅している。原因の一つが外来種のノネコにあるという。200年前人が定住し、船中にも人間化したことから狭い島が野生化した。一人の獣医が中心となってノネコを引っ越しさせ、本土に戻して飼育と活動を行う。狭い島の笑顔が美しい。

ペルーの甲子園

～優勝選手と元球児たちの30年～

藤 家樹
66歳
東京都
19分53秒



ペルーの友人から届いたDVDは放送局関係者を連絡するミサの映像だった。佐藤氏は「都立の星」で知られた高校野球の監督で、ペルー野球を遠く支援してきた。活動は野球道具の密着から指導者の育成まで及び、亡き後も続いている。「ペルーの甲子園」をめざしての歴史に教えるの監督が溢れる。

銀輪15,000kmシルクロード20年

河野 研夫
73歳
東京都
9分59秒



自転車愛好者 地球と話す会 600人が参加したプロジェクトの記録だ。周の西遊記からゴールの晴れたローマまでのシルクロード15,000kmを20年かけて走破。上り坂と暑さと砂嵐に悩まされ、奇蹟の4割を走り、訪れた国は15。各地で子どもや村人たちと交流会を行った市民大使の活動も紹介。

本土初空襲の犠牲者

鈴木 賢士
81歳
東京都
11分30秒



戦争の悲劇を美化させず後世にどう伝えるか。作者は関係者の証言や資料を収集しビデオに取り込む。第二次世界大戦。真珠湾攻撃の4か月後。関東上空に敵機が現れ空襲で39名が死亡したことは知られていない。早稲田中学でも空襲が犠牲になり、今でも記憶が行われている。教材に活用したい。

Express

森江 康太
28歳
東京都
6分09秒



富沢製油作「鉄腕アトム」の創作続編のアニメ作品。親友カムパネルは川で溺れた。強姦者ジョバンニは逃げ去る。悪意の出る。心奪いと再会したことから、刃を抜くか快復。ピアノ演奏とともに深い愛情が丁寧に描かれている。水の音の表現は3.11への鎮魂歌とも受け止めた。

ゴーちゃん 長後にはやってきた

藤沢 由紀子
グループ
神奈川県
15分28秒



藤沢市の地域をアピールするプロモーションビデオ。異星人が長後に降り立ち、空想のあまり倒れ込んでしまう。町民たちは美味しい食べ物で彼を助け、元気に。お礼にお店の手伝いを。今では町に受け入れられ、町民の愛が溢れる。名物、名品、歴史、名所、音頭も紹介され、行ってみたいくなる。

我家のペットは一万匹

岡 幸徳
64歳
新潟県
19分14秒



作者宅には家族の黒猫があり、1万匹の数を誇っている。きっかけは妻の趣味の増殖づくりで夫は純粋無邪を再発見と宣言したからだ。作者の飼育日記はめまぐるしいが、黒猫と猫球が興味深い。秋、婚約が結ばれ美味しい収穫となる。妻も増殖づくりを再開。彼たちの短い生命と活動に感動。

6丁目13番地

小野 塚了
75歳
長野県
5分30秒



高柳晋の独り暮らしは暗くなりがちだが、この作者はすこぶる明るい。タイトルは自宅の番地で、今では周囲の中でとりわけ古い家となっていたが、最後まで住み続けるという。この家には自分まつわる家族の思い出と貴重な品々がたくさん残っているから、元気がでてるビデオ家族史。

ニワトリ物語

～育む時の中で～

藤原 隆太
24歳
大阪府
17分48秒



童謡タッチの切り紙アニメーション。ニワトリ一家の冒険だが、愛情一杯の子育てだ。元祖は卵を抱いて身動きが取れない。雄鶏は愛着で卵が孵る。卵の卵に卵の卵を産むことができた。カラスの卵を産む。卵には卵を取られてしまう。卵と産卵をかけた卵を経て、無事には成長する。

ジャコウアゲハの謎

谷口 正治
63歳
兵庫県
8分10秒



美しい美しいアゲハに異変をもった少年は教師にジャコウアゲハだと教えられる。調査し始める。心算が足りず、生まれた幼虫は卵の殻を食べた。この殻は謎が多い。卵をもつアゲハメスアゲハを食べ、幼虫が「お笑い」と呼ばれるのはなぜか。観察は兵庫県歴史館の歴史や環境問題にまで広がる。

町の小さな映画館

としおのあきら
70歳
奈良県
20分00秒



ビデオプロジェクトとして興味ある活動。経営していた店を閉めた後に出た作者は北海道の海町で小さな映画館に出会う。客が一人でも上映しているのに関心。自作を上映して貰い、初体験に感動。海町。わが町の公民館で「元気が出る映画館」を始めようと思案。予算上、自主制作の上映のみだが、これが受けて今も続中だ。

白ねぎに挑戦

中島 義隆
52歳
広島県
19分00秒



腕の筋力を得ながら、初めて白ねぎづくりに取り組む中年男子の奮闘日記だ。練習は付けたばかりでうまくいかない。練習、練習、練習。遠征をやり、時には苦戦。自給例に悩み、土寄せをすること5回。手袋がわかるが収穫の喜びも大きい。ローアングルのカメラワークとつよつよが独特。農家の現実が見える。

グランプリ〈ビデオ大賞〉の 選考プロセスを公開!

再現
ドキュメント



【ビデオ大賞『きっと世界は素晴らしい』はこうして選ばれた!】

トークフォーラムは午後2時から下村健一さん(TVF理事、市民ジャーナリズム運動で知られる)の司会でスタート。壇上には向かって左から、下村さん、村山一郎(映画評論家)、大林宣彦(映画作家)、佐藤博昭(ビデオ作家)、高畑 勲(アニメーション映画監督)、小林はくどう(ビデオ作家、TVF代表理事)各審査委員が並ぶ。初めに小林代表理事が、主催のTVFを代表して、組織と運営について説明。その後今回から審査委員に加わった映画評論家村山さんが紹介された。司会の下村さんは「公開審査は昨年に続いて2回目。36年の歴史のあるTVFだが、公開審査で何が飛び出すか。大勢の市民ビデオ作者が目の前でキラキラした視線で見つめているので審査委員もやりにくいかも」と、緊張感を和らげるかのようなオープニングでトークバトルが始まった。

村山 初参加だが、優秀作品10本を見て、どの作品も伝えたいことをよく伝えているというのが第一印象だ。

大林 私は昨年11月からヒゲを剃っていません。次回作品の編集でモグラ生活の毎日です。TVFはプロもアマもない表現の力が問われるわけですが、その一方で秘密保護法などという恐ろしい法律が飛び出し、山田太一さん、高畑勲さんたちと反対運動に加わったりしています。TVFも表現の自由あればこそです。表現の自由を守る—これが今年のテーマです。

佐藤 私は審査委員を12年やってきました。かつては3000本以上も応募があったTVFですが応募数こそ減りましたが今も昔もクオリティーは不変です。分母は小さくとも水準は維持されているのが今のTVFです。今年のお薦め作品では、高齢者層の作品と若い世代の作品に2分されましたが、エネルギーあふれる若い人の作品が印象的でした。

高畑 10本しか見ていないが、バラエティに富んだ作品ばかりでした。海外からの応募は数は少ないようですが、タイから参加した作品に注目しました。

小林 TVFとは長い付き合いになるが、いつも学ぶことが多い。応募作品の作者は皆真剣に生きてメッセージを投げかけています。等身大のノンフィクション作品ばかりで、作品を見ながら私は自分自身のことを考えていました。作品の多くは現在進行形、作品のingをワクワクしながら感じていました。

下村 さて、いよいよ大賞の選考に入るわけですが、何を基準に選ぶのか、表現の技術なのか、作品の主張か。どうですか?

小林 得点が高いからいいのかというそうではない。今までにないテーマとなる問題の提示の仕方、足を一歩前へ踏み出した作品を期待したいです。報道番組を見ていて、撮っている人は何を感ずているのかが気になります。

高畑 タイの作品に注目しています。この作品は教育という視点で作られているのか。TVFでは教訓を伝えるような作品はあまり出てこないが、私はもっと教訓的な作品があってもいいと思う。その点『2 Brothers』は考えさせられる作品ではないか。

佐藤 確かに映像全般がエンタテインメント中心になりがちだ。かつては説話や教訓が題材になったが、現在では教育映画のリアリティが現実と乖離しすぎていてのではないかと感じる。

下村 作者のWorawut Lakchai (ワクチャイ)さんがタイから参加されています。ワクチャイさんに聞いてみましょう。

作者 私はタイの学校教師です。教師の立場で日頃考えていることを作品にしました。作品は学校で生徒に見せています。選ばれて嬉しいです。

大林 TVFは、国際的な市民ビデオの広場です。タイから参加してくれてありがとうございます。子どもたちの教育のためにこの作品を作ったということは素晴らしい。日本でも昔は「映画は学校」と言われた時代がありました。戦争が終わって、「映画で教育するなんてウゼったい」という空気ができたような気がします。ニューヨークの美術館の人が「映画を見ることはフィロソフィが学べるからだ」と言いました。ところが哲学を語る映画が少ないのです。

下村 ほかの作品についてはいかがですか?

小林 『ネジとねこ』が面白い。地味な作品ではあるが、自分の仕事は社会の歯車の一つに過ぎないけれどその仕事に誇りを持つ—そんなイメージがある。TVFの本拠地蒲田は中小企業の町、ネジの工場もたくさんある。その意味で、蒲田で選ばれる意味があるかもしれませんね。

村山 私も『ネジ』は面白いと思う。自分のやっている作業はきっと何かの役に立っているはずという意識は皆持っている。そういう視点で見ると教育的、啓蒙的作品と言える。作者というのは個性的でわがままなところがあるわけで、そういう人たちの作品を審査するのは、いろいろの意味でやりにくいものです。

高畑 『ネジ』はアニメーションの作品として技法を見ると、一人の作者が作っているのが嬉しげなところがいいところがある。

下村 ほかの作品では?

佐藤 『Od-project』は先生と生徒によるアートライブ作品として面白いと思う。学校の活動のなかの映像としてみるといろいろ工夫されていてユニークな作品となっている。

下村 作品を作ってそれを上映しているところをまた映像にしている。

大林 映像の力って素晴らしいですね。映像の技術も素晴らしいが、その先に何が見えてくるのか、そこに作者の想像力が働けば、映像とはなんなのかが見えてくる。

村山 この作品は映像がわかりにくいのが難点。ライブ映像の方が面白い。映像を見ている環境に興味がある。

下村 映像の「向こう側」と「手前」が対照的ですね。映像の立体感や奥行というのをどう評価するかが問題ですね。会場の方はどう見たのでしょうか。

会場 どうやって作ったのか興味があります。映像の裏側や上映中の出来事

を見せたり、面白いと思いました。

村山 『私の顔の中』は工夫された作り方で面白いが、平面にスクリーンを並べているような感じがした。

小林 作者の池田さんはTVFの常連応募者だ。私自身、3.11以来、エネルギー、原発、食品など危機感のある問題で顔の中がいっぱい、池田さんの作品は画面ではしゃぐお孫さんの将来は?という思いが伝わり考えさせられる。映像の羅列のなかに考えるべき問題が見えてくる作品だ。

佐藤 私も面白いと思う。3.11以降、2012年までは現状を直視する作品が多かった。2013年になると個別の問題の関連性を取り上げる作品が出てきた。この作品は、そういう様々な問題が個人の顔の中でどのように表現できるのか、表現にチャレンジした作品だと思う。



下村 『祖母』と『終章の祈り』には共通するところがあるように思われますが、
佐藤 『終章の祈り』は、看護の立場で患者さんに踏み込んで作った作品です。よく作れたなというのが率直な感想です。病院側が患者を見つめるその関係性がすごいなと思った。

大林 市民ビデオというのはいろいろな視点で見ることができる。患者を他者がビデオで撮ることができるのは、患者との関係性が問題となるはずですが。もともと市民ビデオというのは撮ることに自分が責任を担うのです。だからこそ、なぜ撮ったのかのメッセージ性が求められるのです。

下村 信頼感があればこそ撮れたのでしょね。

村山 家族にとっては記念すべき映像ということになるでしょうね。この作品について言えば、患者と介護側の人との関係性がもう少しはっきりと出た方が良かった。

大林 ドキュメント作品では、カメラは撮る人の目ですね。その目で、市民ビデオならではの点を見つめる。「私ども」ではなく「私」が見るのです。

下村 商業テレビのキャスターの経験でいえば、商業テレビ

は「私」はダメなんです。「私ども」と言わなければいけない。個が出せないのです。市民ビデオは「私」なんです。次に『Dear Flying SHISA』にいきましょう。

村山 私は昨年『Gray Zone』に続いてうまい作りの作品だと思いました。話の中でややギクシャクした部分もありましたが全体は自分と父の対話で構成され絵づくりもうまい。

大林 菅さんは「国民に死ね」と言うのは首相だけだと言いましたが、この作品は娘がお父さんに「国を守る」というのはどういうことなの」という問いに答えていない。自衛隊が国を守るというのは、国民の犠牲の上に成り立つという厳正な事実を曖昧にしているところが気になる。

高畑 ラストの部分に妥協的すぎる気がする。作品として一番大事なところ。
佐藤 作者は父に「家族のため」と言って欲しいらしいが、甘えすぎではないだろうか。

村山 作り方はうまいが、ツッコミがないのでは。作者の歴史や社会への視点が見えない。

小林 自衛隊家族の作品はこれまでもありましたが、この作品はTVF応募作品の中で自衛官の仕事をとらえた最初の作品です。無言の父をカメラは見つめ続ける。やっと父は「任務」と答えるのですが、「ではその任務の意味は」と突っ込んでほしかったですね。

下村 『広島原爆の惨禍』にいきましょうか?

村山 8ミリ映像が素材として残っているのがすごい。小型映画の面白さ、資料性というものをもち活用すればさらに良かったと思いますね。それにして音楽を流さず。

下村 作者の松田さんが広島から来場されています。聞いてみましょう。
作者 広島原爆70周年が近いこともあり、「語り継ごう『映像を残そう』という動きが活発になっています。広島8ミリクラブは来年で50周年を迎えます。なんとか残しておきたいという思いで中国新聞のバックアップもあって作りました。

下村 市民ビデオとマスメディアとのクロスの時代がきましたね。
大林 忘れかけていた過去には学ぶことが多い。過去に学ばなければ未来は

ありません。

下村 『祖母』、『廃校になった高校で』はどうですか。

小林 『祖母』は、親のこと、その先のことはなかなかわからないものです。何も分かっていない家族の歴史を孫が祖母の人形からたどっていくドラマチックな作品です。ボケ気味の祖母が尊い感じに見えるのが印象的だった。

高畑 人形のメルヘンチックなところがいいですね。介護は身につまされるテーマです。「どこそこへ行きたい」という祖母の言葉が切ないですね。

村山 祖母と孫の関係性と、祖母と人形の関係性の二つの話の間が牽制していいのがいい。インタビューのシーンがよくできている。

大林 構成力は見事ですね。シアトルの部分の描き方は中途半端です。

佐藤 『廃校になった高校で』は、作品としてもまとまりよりも話を聞きに行く姿勢と態度がいいと思います。対象となる人と近さが伝わってきます。

小林 避難所とはなんだったのかを考えさせられます。弁当支給だけの毎日の中で何も見えなくなっていく人たちと、盆踊りを追うカメラが自然体となっていくのがいい。

大林 気持ちよく素直に見られる作品でした。東日本災害地で、表現者は何をどう撮るべきかを考えさせられる作品です。市民ビデオは想像力の作品といえます。被災地や避難所でカメラは暴力になりがちです。「いい絵」を探してしまうからです。撮影することで誰かを傷つけてはいないか、「おびえ感」を持たなければならぬ。「いい絵」は許されないのです。「人としてそこにいる」ことが優先することを忘れてはならないのです。

高畑 私も想像力が大事だと思います。その後、どうなっているのか、これからどうなっていくのか、現在はどうか、すべて想像力です。良い作品ですが、完成度という点でやや物足りませんでした。

「ビデオ大賞」に輝いたのは高校生の作品

下村 さて最後に残った作品が『きっと世界は素晴らしい』です。

小林 すごい作品と期待しましたが、高校生男女の距離感がぐんぐん近くなっていく、そのプロセスが説明的でなく、感性で迫ってくる。映像の作り方として面白かった。

下村 作者の高校生が来場しています。聞いてみましょう。

作者 「高校生が作った作品」と言われたくないのです。「私は私」の気持ちで作りました。

村山 セリフのやりとりよりも、映像の切り返しで作っている感じ。出てくる高校生の演技がうまいのびびくり。ナチュラルな芝居に眼が離せなかった。

佐藤 教室の表情がよく出ていました。僕らが撮ろうとしてもあそこま

で撮れません。映像の作り手として嫉妬を感じたほどです。高校生というより市民ビデオ作家らしい感性を感じました。

大林 高校生の力は素晴らしいですよ。私自身高校生時代に映画を作りました。たまたまその時は高校生だった。「高校生ではなく私が作った」と言いたいです。映像のことをよく勉強していますね。花火の使い方もうまいですよ。芸術は自由です。戦争のない時代、叫ぶのも自由です。私たち大人が作れなかった本当の平和の時代を、君たち高校生が作ってくださいよ。

下村 『ビデオ大賞』にいきましょう。

村山 私はバランスを取って『きっと世界...』を推します。

高畑 同感です。

佐藤 ドラマ作品を応援したいので『きっと世界...』でいきます。

小林 私は別の作品を大賞に推したかった。これまでのドラマ作品は説明的過ぎたのに対して『きっと世界...』は若い力で作ったドラマ作品です。大賞でいいでしょう。

高畑 年を取るとかく説明したくなる。若い作品に期待しましょう。

大林 芸術の力で『素晴らしい世界』を作ってくれることを信じて、『きっと世界は素晴らしい』の大賞に賛成します。

下村 それでは審査委員の一致した意見で『きっと世界は素晴らしい』を「東京ビデオフェスティバル2014」の「ビデオ大賞」に決定しました。審査委員のみなさんありがとうございます。作者の川端佐和子さん、おめでとうございませう。

(記録:前田健策)



きっと世界は素晴らしい

ビデオ大賞



15分03秒

川満佐和子さん

17歳
埼玉県
埼玉県立芸術総合高校映像芸術科



ビデオ大賞

『きっと世界は素晴らしい』

作者にとっては日常的な場である学校という空間が、ある時は和やかな交流の場として、また、ある時は退屈でしかない空間として、そして、殺伐とした緊張感のある戦いの場として、見事に切り取られ映像的空間として再構成されている。学校での出来事としては珍しくない些細な事件が、当事者の心情をわずかに揺さぶるさまが、繊細なカット回りと、細部を逃がさないクローズアップで描き分けられた時、例えば、登下校の時の穏やかな坂道が、映画的には緊張感のある劇的空間として再生される。何よりも、言葉に頼らない映像の伝達力を信じる作者の感性に驚き、微細な空気の動きに注意を払う構成力にただ感心し続けた。新しい才能の出現を審査委員一同が喜び、TVF2014を代表する作品として、この作品に「ビデオ大賞」を贈ります。
東京ビデオフェスティバル2014審査委員会

ビデオ大賞・筑紫哲也賞・サポーター賞

【選評】

ノネコの引っ越し作戦 ～海を越えて命を守る～

筑紫哲也賞



10分05秒

岡田紗由香さん

20歳
東京都
中央大学FLP松野良一ゼミ



筑紫哲也賞

『ノネコの引っ越し作戦～海を越えて命を守る～』

一人の獣医師が中心となって、一つ一つの命を守るため、手厚く愛情をかけて生きてゆく。その過程を追って伝えることが主軸の作品ですが、ふと注目線になったり、驚愕して見たり、と視点をずらすことで、多角的に想像力が刺激されました。例えば、爪を立て歯を割いて飛びかかる、ノネコの思慕、一瞬息をのみますが、それは生きるための必死な姿でもあったり、手厚く保護され、次第に穏やかになってくる、ノネコの愛護、それを見て、人間だったら・・・と重ねて見たり、地球上の、多種多様な生物という観点で考えてみたり、—— 幾重にも、問いが浮かんできます。この作品が捉えたノネコの表情には、見る側にそんな問いを喚起する力がありました。この活動のことを初めて知る方も多くと思いますが、そこからそれぞれが、考えの枝葉を伸ばせる作品だと思います。
筑紫朋子 ゆうな

広島原爆の惨禍 ～もう一つの証言映像～

サポーター賞



18分50秒

松田治三さん

76歳
広島県



サポーター賞

『広島原爆の惨禍～もう一つの証言映像～』

瀬戸内海に浮かぶ広島は自然豊かなが、1971年土木作業中に617体の遺体が見つかった。広島原爆での被災者を密かに処理するために埋められたものだ。発掘の様子を8ミリフィルムで収めたのがビデオ仲間の中村敏雄氏。作者はこの映像を足掛かりに、証言をもとに当時を解明する。この作品は、何よりも映像の力の強さに圧倒される。そして慎重な調査によってしっかり裏付けられた物語が心に響いてくる。映像芸術としても大変貴重な作品である。
東京ビデオフェスティバル2014審査委員会

東京ビデオフェスティバル
2014

総評

未来の平和を
創造する力を

大林宣彦

映画作家



3.11を体験して、「市民ジャーナリズム」が急速に力を発揮して来た。「いま」である。メジャーの公共放送が、その「客観性」に拘泥するあまり、「私ども」が主体とならざるを得ない記録映像製作の伝統の中に、いまや市民ビデオは「私」という「主観」を屹立させた。これは「観察力」よりも「想像力」を喚起する伝達の作法であり、「客観性」よりも、「普遍性」を尊ぶ意志。したがって「記録」が「記憶」となり、事件を「風化」させぬ力を持つ。これを「アートのジャーナリズム」と僕は呼ぶ。そこから提言する。いまやカメラはあなたの目である。ならばあなたは耳も口も持っている人間だ。被写体は対話の相手であり、人である。語れ、耳を傾けよ。カメラを向けながら、対話者と「私」で語り合え。客観的な「私ども」のナレーションなど、伝達者との距離を遠ざけるだけだ。「ビデオ大賞」のあなた、そうやって約束を果たさない。君はきっと「世界を素晴らしい」く、創造できるのだよ!

苦と楽で溢れた
市民ビデオ

小林はくどう

ビデオ作家・成安造形大学客員教授



TVFもオリンピック同様文化の祭典だ。東京オリンピック2020に世界の人を招いてTVFを実現したい。振り返ると東京オリンピック1964の年に、日本のメーカーから世界最初的小型ビデオカメラとレコーダーが発売された。新しいメディアと思っていたビデオも50年の歴史の中で市民ビデオとして世界中で深化して来た。ジャンルに関係なく、幸せを願う様々な苦と楽で溢れた作品を前にすると、現在のTVFは規模が小さいが、人類の祭典なのだと思いたくなる。今回村山ゲスト審査委員を迎えた公開審査会は熱心な作品合評会となった。受賞者には更に高見を極める勉強の場になったのではないかと。市民ビデオにはマスコットの「私ども」ではなく、「私」の一人称が軸で、「客観的」よりも「主観的」に接し、社会や自分への「何故」という好奇心が鍵となるのだ。「小さな映画館」の活動も興味深い。わが町に自作上映の映画館を実現する話で、全国に広がれば素敵だ。TVFの作品も上映して欲しい。

「道具」を超えて
「表現」を手にした人たち

佐藤博昭

ビデオ作家・日本工学院専門学校講師



言うまでもなく、TVFは映像作品が集まらなければ成立しない。応募作品数が減ってもその質が低下していないTVFは、極めて稀な市民映像祭だといえる。良質な作者の多くが市民映像の常連であることに安住せず、新しいテーマや取材対象に挑むその姿勢には驚かされる。加えて、TVF2014は新たな出発点のような新鮮な転機を迎えたと思っている。映像が「道具」から「表現」へと確実に転換したと言っている。今回のビデオ大賞の作者は、映像という道具を手にした高校生らしい初々しさが評価されたのではない。すでに巧みな映像の使い手であることに加え、日常の風景を表現として切り取るその嗅覚のような感覚が優れていた。空気の微妙な変化に心を動かす作者の態度は、美しさを伴って見事に視覚化されていた。同じことは「祖母」の美しい距離感にも言えるし、「Od-project」の発表形態の新たな試みにも言える。たくさん市民映像作家たちの、映像「表現」への熱意に感謝します。

TVF
継続は力

高畑 勲

アニメーション映画監督



優秀賞10本はどれも意味ある作品で、作者に敬意を表し、見せて頂けたことに感謝します。「きっと世界は素晴らしい」は、作者の川瀬さんが、「高校生の作品」と見られたくない、と意気高く語り、私も、その言やよし、と思ったほど表現能力は優れていました。しかし私はやはり、高校生の作品だから最優秀賞に推したのだ、と言わなければなりません。作中の飛躍やわかりにくさ(推測可能なことですが)は、それ自体が内容と不即不離の関係にある表現だとは思えなかったからです。優れた表現者に成長していくことを願っています。「祖母」の「つれてって」と訴える祖母の姿は目に焼き付いて離れません。まるで粉れ込んだかのように異質な、タイの教師ラクチャイさんの作品「2 Brothers」を見て、人間として身につけるべき基本的な徳目を教えるための明快な教材ドラマの力を感じました。この類の作品は教育映画館でも日本では皆無ではないかと思いますが。

市民の等身大の世界は
素晴らしい!

(ゲスト審査委員)

村山匡一郎

映画評論家



初めての審査ということで「優秀作品賞」入選作10本を見せてもらったわけだが、表現レベルの高さには正直驚いてしまった。いずれが「ビデオ大賞」に選ばれても少しも遜色がないと思われた。ドラマ、ドキュメンタリー、アニメーションと並ぶ中、テーマも実にさまざまで興味深かった。例えば、自衛官の父親との対話を描いた「Dear Flying SHISA」、認知症の祖母を孫が描いた「祖母」など、私的で身近な世界に見出されたものが多く、さすが市民の映像祭と感心した。惜しむらくは、もう少し長ければもっと深められたかもしれないと思う作品があったこと。20分以内という規定のため致し方ないと思うが、テーマや題材によっては短編では限界を感じるものもあるからだ。そんな中、グランプリに選ばれた「きっと世界は素晴らしい」は、高校生自身による等身大の姿を、ぎこちないながらも視線のドラマとして昇華して、思わず見入ってしまう魅力を選べて秀逸だった。

Tokyo Video Festival for the people
東京ビデオフェスティバル2014
 全応募作品
 たくさんのご応募、
 ありがとうございます。

●=優秀作品賞
 ▲=佳作
 ★=ビデオ大賞
 ◆=読者賞
 ■=サポーター賞

タイ

The Transistor Radio	Preecha Sakorn
● 2 Brothers	Worrawut Lakchai
Exile	Worrawut Lakchai
Have a good life	Thodsapon Reandara

北海道

甘いバラ色の縁	藤澤 誠
格闘!	有沢 平一
心コミって?	北星学園大学飯井ゼミ・米澤 潤
札幌モラトリアムストリート	北星学園大学飯井ゼミ・米澤 潤
Radio	長瀬 信太郎

岩手県

ジュンさんと文化祭 絆	阿部 秀次
-------------	-------

茨城県

▲長妻工場裏側	長妻 洋
屋久島・白谷雲水峡トレッキング	田崎 博

栃木県

▲神楽が街にやって来た!	石川 勝
車イスの橋梁	藤崎 賢子
薄命の歌人 田波御白の生涯	石塚 高輔
星ふるソラに風は詩う	milya
炎の歴史	益子 光
●私の頭の中	池田 登

群馬県

▲たなぼた	青柳 文治
漢文字	青柳 文治
ぼくちのゴーヤ	松岡 秀典

埼玉県

GOPROで遊ぶ	萩原 明
あいまって	長谷川 夏希
アザミ	初野 百花
▲あそぶ	浮田 彰輔
▲雨乞いの折り	住田 勝
幾久しい私達	石岡 花子
いじめ	出村 紗季
いない	甲田 悠馬
into 日常	坂本 奈央
●きっと世界は素晴らしい	川瀬 佳和子
★旧坂戸宿 町屋のお雛様	岡田 延男
門のささら守り継ぐ	住田 勝
刑務所	鈴木 誠
ことほちゃんからの手紙	田中 浩
ゴルフ!	加藤 秀嗣
最高の休日の過ごし方	三上 陽介
幸せは過ぎる光の下で	船沢 りんね

十字路にたたずんで	菊竹 伸輔
艇 timer	鈴木 貞彦
地球のうた	加藤 秀嗣
ノロコ列車の旅	萩原 謙子
●廃校になった高校で～双葉町との出会い～	堀切 さとみ
母上が語る一枚の家族写真	松本 豊信
▲ランチボックス	加藤 秀嗣
歴史探訪群馬台国	溝口 正造

千葉県

希望の星	鈴木 文秀
さくら咲く頃	吉川 泰子
星のひなまつり	本井 美千代
去りゆく人々	内田 ユウ子
GIサージェントとの思い出	岸 敬生
川友の詩	大塚 雅昭
ぬるい紅茶	赤松 桜
母の想いの雛人形	後藤 アツ子
僕出来ました	石渡 志子
Midnight Call	赤松 桜
▲有朋自遠方来～友あり遠方より来る～	横田 充孝
雷降るよき日	石毛 文男
夢の埃	赤松 桜
龍	鈴木 文秀

東京都

2G3クラス紹介とドッキリ映像	大森学園高等学校2年普通科3組
2M2とゆかいな仲間たち(スーパースレイ)	大森学園高等学校2年機械科2組
▲30秒のセカイ	film_puzzle
46人のonly one	大森学園高等学校2年電気科1組
VOLUNTAS	専修大学田村ゼミナール
赤ん坊に猫パンチ	松波 晃
漁火想2013	宮澤 真子
一週間(II)	山崎 喜久雄
海の遠鳴	荒井 純子
▲Express	森江 康太
音の職人	古川 一浩
おねえちゃんになったひ	佐藤 健人
音楽番組「応援歌・タイムボカン」	栗山 健一・相川 幸人
音楽番組「Rainbow Music・ミュージックライフ」	西村 悠・白井 瑞太
感情のカラーコード	たじまやまい
君を通じて	江戸川区共有プラザ南小岩
▲銀輪 15,000Km シルクロード20年	河野 照夫
グローブマスター機墜落事故	菅田 健太郎
子どもたちと生きるために 福島教師たち	沼本 雅典
探せ! 多摩の謎の生物	大谷 誠
さよならグ・ネツア	佐藤 好子
サラリーマンからた	film_puzzle
シエルバの郷を訪ねて ヤルン・リ登頂	舟橋 栄子
自分史 インドの思い出	片山 正晴
19歳	Super Scooter Happy
笹職人	福田 妙友里

人生ゲーム	東京都立六郷工科高等学校映画研究会
スタジオドラマ「妄想彼女」 ver.1	田家裕光
スタジオドラマ「妄想彼女」 ver.2	大野雄平
清庵と弟子 新宿を往く	長野信夫
銭湯背景画絵師	岡田妙山香
卒業制作「星」	近内雅太
●祖母	三浦 夢
空に舞うブルーインパルス	久保田美保子
多摩あるきたい! 立川編	森 亮介
多摩の太鼓職人	野崎智也
田んぼアート事件	堀江成子
鳥越祭寸描	牛木大雄
永遠のこいびと	堀江成佳
何も変わらない中で 2013年・春・福島	岡本雅典
●ネジとねこ	馬場美紀
▲ノネコの引越し作戦～海を越えて命を守る～	岡田妙山香
檜原村と共に	金光直理
不発弾に刻まれた記憶	新冨裕樹
▲ペルーの甲子園～佐藤道雄先生と元球児たちの30年～	藤 宏樹
愛賢者	尾形裕之
▲本土初空襲の犠牲者	鈴木賢士
孫娘ひなのこと	佐藤真子
窓の外には	Act-jam
夫婦散策	渡辺 賢
ヤツが来る	駒井俊彦
閑無	東武会映像制作部
京華の恋愛相談	東武会映像制作部
私はカナリヤらしい	石川浩子
ワンシーンワンカット 男勤	佐藤見司

神奈川県

「3.11震災特番・2時間生放送」密着ドキュメント	東海大学メディアグループ
ART LIVE13 UI	ARTLIVE
相棒	金子豊一
赤い靴はいた女の子(五つの放題)	直木秋之
あなたの夢は何ですか?	専修大学田村ゼミナール
あぶらあげ おぶぎでっど	CLCA市同窓映像制作ワークショップ
●Od-Project	本山 崇・ARTLIVERS
弦斎から学ぶ食育	東海大学メディアグループ
▲ゴーちゃん 長後にやってきた	藤沢市長後塾
古希になりて思うこと	大岡橋夫
三人娘の引越	CLCA市同窓映像制作ワークショップ
●終章の折り～あなたに愛を遺して～	白井由貴子
Sky Touch	相模田名高等学校芸術部
世界とつながる	東海大学メディアグループ
TRUE LOVE	CLCA市同窓映像制作ワークショップ
鳥遣っかけの旅 天売島	小林フジエ
願いを込めて	金子富代子
ピースフルエクサイティング明治	藤沢市明治塾
百八ツ火	東海大学メディアグループ
美容室物語	白井由貴子

ホテルマン・人生	CLCA市同窓映像制作ワークショップ
緑と海と人が輝くまち「湘南 藤沢 鶴沼」	藤沢市長後塾
未来人VS卑弥呼	CLCA市同窓映像制作ワークショップ
LIFE BOOK	ARTLIVE
ロクロが作る雑の世界	藤井喜郎
私は見る (Video)	東 弘基

新潟県

彼	藤浦直樹
身近にこんな事が	河野明彦
▲我家のペットは一万匹	岡 幸徳

石川県

県境を越え老人クラブ交流記	岡野泰和
至宝の輝き ルビーロマン	上野陽亮

長野県

山への情熱	吉野和彦
▲6丁目13番地	小野塚了

岐阜県

高雄歌舞伎	吉田瑞穂
-------	------

愛知県

紋師	柴田啓夫
----	------

京都府

●Dear Flying SHISA	塚原真梨佳
HAND MADE	吉田 楓
二人の祖母の戦争体験談	川上卓馬
香港に億万長者の夢を見て	川野誠治

大阪府

絆で帰郷	有村 博
▲ニワトリ物語～育む時の中で～	藤原健太

兵庫県

香りの記憶	映像制作個人
▲ジャコウアゲハの謎	谷口正治
谷川に生きる	兵庫県立「ゆめさきの森公園」学芸部グループ

奈良県

▲町の小さな映画館	にしおかふとし
-----------	---------

鳥取県

左燈パラダイス“力をひとつに”	左燈の将来を考える会
-----------------	------------

広島県

カンボジアの旅 Part-1	日高道徳
▲白ねぎに挑戦	中森義隆
電車	日高道徳
●広島原爆の惨禍～もう一つの証言映像～	松田治三
風化させないで	佐々木博光

山口県

う・つ・り	大野雄二
-------	------

愛媛県

久保田美代子さんを囲んで	岡野誠子
散歩中に出逢った“野鳥達”	佐伯幸男
太陽の力	黒川 賢
ハワイを旅して	河野壽美子
ビデオ片手に弾ける!! オーストラリアの旅	原田志美子・伊藤真子



広がるビデオ& コミュニケーションの輪 [交流会]



東京ビデオフェスティバル 2014

- 10:00...開場
 10:30...TVF2014入賞作品上映
 14:00...審査委員による(トークフォーラム&公開審査会)
 ・大林宣彦氏(映画作家)
 ・小林はくどう氏(ビデオ作家・成安造形大学客員教授)
 ・佐藤博昭氏(ビデオ作家・日本工学院専門学校講師)
 ・高畑 勲氏(アニメーション映画監督)
 ・村田く一郎氏(ゲスト審査委員・映画評論家)
 16:00...TVF2014発表・表彰式
 ビデオ大賞発表・上映・表彰
 特別賞(賞状授与・サポーター賞)
 優秀作品賞・佳作表彰
 18:00...TVF交流会

東京ビデオフェスティバルのキャラクター、
象の撮象(トルゾー)です。



さあ、AZO(エゾー)メガネをかけて今日もイ映像を撮るぞー!

キャラクターデザイン:三原弘光